

教養的科目において動画配信サービスを用いた授業についての実践報告 Practical report of lesson using video distribution services in the Liberal Arts

森 祥寛

Yoshihiro MORI

金沢大学総合メディア基盤センター

Information Media Center, Kanazawa University

Email: mori@el.kanazawa-u.ac.jp

あらまし：2012 年度前期より、金沢大学の教養的科目にて動画配信サービスを用いて、実際に番組を作らせる授業を開講している。この授業では、番組作りを通じて、企画立案から、各種準備、実際の放送、放送の結果のまとめまでを学んでいる。動画配信サービスを学習のためのツールとすることで、グループで活動をするための様々なスキルを身につけることができた。授業内容と実践について報告する。

キーワード：情報教育, PBL, 実践報告

1. はじめに

近年、学士力や社会人基礎力という形で、コミュニケーションスキルやチームで働く力、課題発見力や問題解決力等が学生に求められている⁽¹⁾。これを受けて、大学では、所謂、「主体的な学び」を行うための教育方法について模索されている。その1つとして、学生が能動的に学習活動に従事することを求める学習スタイルがある。例えば、グループワークを用いた学生参加型の授業や、課題・問題が与えられその解決方策を検討していくような PBL (Problem Based Learning) 型の授業である。

この PBL 型授業の1つとして、金沢大学の共通教育(所謂、教養教育)において、「動画配信サービスを用いた情報発信演習」という科目を 2012 年度に開講した。この授業は、ここ数年で一般に浸透したインターネット上のサービスの1つである「動画配信サービス」を使い、実際に番組を作成することを目標として、その過程において様々なことを学習させることを目的としている。

本稿では、この授業についての概要とその結果について報告する。

2. 授業概要

「動画配信サービスを用いた情報発信演習」は、週1回全15回2単位の授業として、2012年度前期から共通教育科目にて開講されている。2012年度の履修者数は4名、2013年度は19名である。

授業の目的は、動画配信サービスの番組を作り、実際に配信することを通して、プロジェクトの企画・準備・実施・結果(成果)報告の課程を学んでいくことにある。同時に情報を発信していく際に注意すべき様々な技術も学んでいく。番組作成は、原則グループ活動によって行うこととしている。

評価は、授業途中にレポート等の課題と、企画した番組に対する視聴者数、及び最終的な報告書で行う。特に課題に対しては、学生同士の相互評価を主たる評価方法とする。

授業全体の構成は表1の通り。

表 1 授業全体の構成

第1回	ガイダンス
第2回	動画配信サービスについての説明*
第3回	1ページ企画書作成方法の解説*
第4回	企画発表会・グループ結成・グループとしての企画作成*
第5、6回	企画のための実施計画書作成
第7回	広報についての説明・広報戦略作成*
第8、9回	実施計画書に基づいた準備作業
第10回	準備状況の報告・一部放送開始
第11、12回	放送実施・放送状況の報告
第13回	放送結果の取りまとめ*
第14回	企画成果発表会*
第15回	発表回自体の反省会*

*：課題あり

授業の中核をなすのは番組作成である。どんな番組を作りたいかが重要になってくるので、企画立案については履修者全員にやらせている。グループ結成は、企画立案終了後、立てた企画を実施したいという意味を持つ学生に、自らリーダーとして立候補してもらい、自分の企画を発表、グループメンバーを集めさせることで行った。グループ結成後、グループ活動を進めさせる一助として、リーダーシップとともにフォロワーシップについて調べさせ、グループ内での立ち位置とグループへの貢献について考えさせた。

授業の目的は番組を作成することだが、単に番組を作れば良いとはせず、作業毎にアウトプット(企画書、実施計画書、広報・宣伝計画書、報告書等)を作成させることに重点をおいた。提出されたアウトプットは、学習管理システム上に掲載し、単に見ることができるだけでなく、相互に評価が行えるようにした。

3. 実践報告・所見

2012年度は1つの企画が進められた。企画内容は、所謂「演奏してみた」と呼ばれるもので、既存の流行歌をアレンジし自らで演奏する番組であった。

全5回の生放送を行った。番組視聴者数は、ユニークユーザー数で215名、コメント数で350であった。

2013年度は、第4回授業で4つの企画が立ち上がったが、企画発表を経て、グループとして結成できたのは2つだけであった。メンバーが集まらなかったグループの内1つは企画を取り下げ、もう1つは1人での企画を実施することを希望した。その結果、3つの企画が進められた。企画内容は、①金沢大学総合メディア基盤センターのキャラクター「あざみ」紹介のためのアニメーションの作成/放送、②ループ・ゴールドバーグ・マシン(ピタゴラ装置)の作成/撮影/放送、③金沢大学学生による討論番組の生放送であった。3つの内2つの企画は、録画放送を行うため、学生は目標視聴者数を10日間で3,000名程に設定した。

本授業で番組作成を行った結果、授業の目的であるプロジェクトの企画・準備・実施・結果(成果)報告を、グループ活動によって良く行わせることができ、グループで作業を進めるための技術も習得させることができた。これは番組作成という目的自体が、グループ活動として分かりやすく、活動がしやすいだったためだろう。また現在の学生の傾向として、ディスカッションに対しての敷居は低く、話し合いを行うこと、或いは進めることへの得意不得意はあっても、全員が話し合いに参加できるだけの下地ができていた。その上で、学生は、本授業で、グループ作業を進めるための効果的な話し合いの仕方等を習得していったようだ。予めリーダーシップとフォロワーシップについて学ばせたことも、グループ内で、グループにいかに関与していくか、作業に寄与していくかを考える下地になったと思われる。

本授業は、そのままでは「番組を作成できて良かった」で終わってしまう可能性があるため、アウトプット作成を厳しく課していった。アウトプット作成に際しては、その場面場面で必要性を説明し、必要とされる企画書、必要とされる実施計画書、必要とされる報告書等々を作成させるようにした。しかし、この「必要性」を実感させることが難しく、課題の課し方に工夫が必要となることが分かった。

番組の準備では、コンテンツ作成等を計画的に作業することができず、作業が滞ることがあった。作業分担ができて、「作業進捗を確認する」ことに気がつかず、計画書で策定したタイムスケジュールにそって進めることができなかった。

番組の放送では、機材の選択からセッティング、動画配信サービスの使用方法まで、放送に必要なこと全てを考えさせ、実行させている。その結果、実際の放送では、第1回目は必ず失敗していた。これは準備不足からくるものだが、実際には「事前準備しておくべき内容を把握できていない」ための失敗であった。この失敗を経ることで、準備に必要な要素・要項・内容等を理解し、以降の準備がスムー

スに進むようになっていた。

特徴的な点として、広報・宣伝についての検討があった。ほぼ全てのグループで、広報・宣伝にブログやTwitterでつぶやく等があげられたのだが、「そのブログやつぶやきを見てもらうためにどうするのか?」という元と同じ問題が出てくる点に気がつかないようであった。全員に、ICTを活用するという発想が主として出てくるところは、インターネットで配信する動画を作成していることから十分理解できる。しかしICTを使えば情報が広がると考えているところで検討が止まっており、このような些細な気づきを見逃してしまう点は、学生同士のディスカッションの限界を示す一例かもしれない。

4. まとめ

PBLによって、活発なグループ活動とディスカッションを実施させたい場合、動画配信サービスで番組を作らせるといったような課題設定は非常に効果的といえる。ただし、作業途中でのアウトプット作成を行わせないと、単に番組を作っただけで終わってしまう。終わらせないための工夫が必要となる。

今回の実践の結果から、よりロールプレイを行うことが良いと考えられる。番組を作成する前提として、教員を「一定数以上の視聴者に対して、特定の情報を発信することを求めているクライアント」と設定し、学生を「クライアントの要望を実現する担当者」という位置づけにして、授業を行っていくと良いだろう。

一方で、この授業では、学生は最初に失敗することで学ぶことが多かった。上記ロールプレイの必要性にもつながるが、アウトプットを作成する理由を課題で出たからとしか考えず、その背景にあるアウトプットの必要性に考えが至らないようである。課題を課す際には、その辺りの説明もしているが、その必要性を実感できず、課題としての要件を満たせないことも多かった。その結果として、作業途中で問題が起り、初めて失敗に気づくのである。しかしこの失敗を授業で体験できるということは、非常に面白いことであり、学生のこれからの様々な活動でも生かせるものとなる。

今後は、この実践を生かしながら、さらなる改善を加えていきたい。

参考文献

- (1) 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」 2012年08月28日中央教育審議会答申
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/tou shin/1325047.htm